

(1)2024 年度(第 73 期)を振り返って

2024 年度(第 73 期)を振り返って

2024 年度(第 73 期)理事長 伊藤 裕一朗

あっという間に過ぎ去った 2024 年。本当に学び多き 1 年であり、充実した JC 生活を送ることができました。2024 年度の大垣青年会議所の活動や運動に関わられたすべての皆様のおかげであり、心より御礼申し上げます。

本年度、「不撓不屈 ～己を信じ、他者を信じ、地域を信じ、明るい未来を創造する～」をスローガンに掲げ、より良い自分に出会うために、より良い地域を創るために、より良い友情を築くために、何事にも諦めない心と信じる気持ちを持って、明るい豊かな社会の実現を目指して邁進してまいりました。

2024 年度を振り返ると、青年会議所活動や運動は「修練・奉仕・友情」の三信条のもとで成り立つことを改めて感じた 1 年であり、特に己を律し、修練を積むことこそが、青年会議所活動の最大の魅力であることに気付かされました。そして同時に、歴史ある大垣青年会議所が 72 年という長い間、西美濃地域に存在しているのは、撓まざる決意と逞しき情熱をもって多くの苦難を克服してこられた先輩諸兄姉の存在があるからであり、歴史と伝統の重みを感じる 1 年でありました。改めて、歴史と伝統を積み重ねてこられた先輩諸兄姉に心から感謝を申し上げます。

【己を律し、あらゆる機会を成長へと導く】

今年度、全会員に向け、青年会議所が与えてくれる機会をどう捉え、どう接するかを考える機会をさまざまな場面で提供してきました。大垣青年会議所の中での役職だけのことではなく、青年会議所活動や運動を行うすべての場面に対して、自分自身で決めることができるその機会をどれだけ考え、大切にすることができたでしょうか。コロナ禍により世の中が大きく変わり、特に個々の価値観が優先され、多様性と言われる時代に突入しました。しかしながら、多様性という言葉を気にするあまり、周囲に対し遠慮がちになってしまい、その結果、成長の機会を逃していくことは 40 歳までの限られた時間しかない我々にとっては、大きな損失であるとも言えます。だからこそ、目的を持って JC のあらゆる機会を成長の場とすることが大切であることを伝え、常に意識して活動や運動に邁進してまいりました。

過去と比較しては後戻りとなるかもしれない。しかし、JC が昔と比べて厳しさよりも楽しさや過ごしやすさを重視したとしても、青年会議所における「修練・奉仕・友情」の三信条は変わりません。己を律し、修練を積むことが青年会議所の最大の魅力であり、それができた時、眞の奉仕や友情が生まれることを実感できた時があったはずです。その体験をこれから先も多く経験することが自分自身を成長させるのです。より良い自分になれる信じて、青年会議所活動や運動に邁進して下さい。そして、全会員が地域の眞のリーダーとなるべく誰もが憧れる JAYCEE になることを心から願っています。

【青年会議所運動の根幹】

5 年後を見据えた時、会員数が半減するという事実を全会員で共有し、全員拡大を掲げて会員拡大を行ってま

いました。結果、6名の新入会員が2025年度に入会をして頂くこととなりました。目標には及びませんでしたが、今年度は全員拡大を掲げると共に、会員拡大に対する意識を変えることができたと感じています。

1年が終わり次の1年を迎える前年から候補者を引継ぎ、会員拡大を行う。単年度制であるがゆえに一番難しく、かつ我々が存在する限り無くなることのない運動をどのように連続性を持って行うかが最大の課題でした。そのため、日本青年会議所シニア・クラブ拡大支援委員会から講師をお招きし、全員拡大を目指す上での会員の意識や組織の作り方を学ぶと共に、今の時代に合った拡大手法を学ぶことができました。その中で気付かされたのは、会員拡大に特効薬はなく、JCの魅力を存分に伝え、その魅力に共感を得ることが一番重要であるということです。今年度の学びを無駄にすることなく、真剣に青年会議所活動や運動に取り組む我々にしか語れない真の魅力を大いに伝え、なにより永続的に行える体制を時代に合わせて模索しながら、会員拡大成功を目指して下さい。そして、会員拡大と共に我々の運動も伝播し、多くの人々から共感される大垣青年会議所になることを願っています。

【地域の本当の声を聴き、未来への一歩とする】

「ツール・ド・西美濃」が2023年をもって区切りとなり、次のステージを目指し運動を行った2024年度、明るい豊かな社会の実現に向け、どのような運動をしていくことが西美濃地域にとって必要なのかを全会員で考えて活動や運動を行ってまいりました。

そのような状況において、まずは原点に立ち返ることが必要であると考え、4月度例会において未来のまちをテーマにした「まちづくりコンテスト」に加え、地域の皆様が今何を考え、何を必要としているかをテーマにした「まちのこえアンケート」を実施しました。「まちづくりコンテスト」においては、子供たちが考える住みたい街を自由な発想で描いて頂きました。我々では想像も付かないアイデアをたくさん頂くことができ、改めて子供たちの可能性を認識すると共に、この西美濃地域を次の世代へと繋いでいかなければならないという責任と使命感を持つ有意義な機会となりました。また、「まちのこえアンケート」では、300件を超えるアンケート結果を西美濃地域住民から頂きました。安心・安全なまちづくりや地域コミュニティ、教育など多岐にわたる課題が存在しているという結果となりましたが、課題であるともないとも思わないという回答が過半数を占め、現状で満足していると考えられる一方、関心がないとも取れる結果であったことも事実としてありました。2025年は「最重点ビジョン」の最終年度であると同時に、次の「最重点ビジョン」を策定する年でもあります。今回の結果を真摯に受け止めると共に、しっかりと分析を行い、今の西美濃地域には何が必要なのかを議論し、「最重点ビジョン」策定に役立てて欲しいと思います。西美濃地域の明るい豊かな社会の実現に向け、次年度へと託します。

また、今年度も8月度例会と10月度例会で大垣市青年のつどい協議会の事業に参加・協力をしてまいりました。特に今年度は団体間の垣根を越えた交流を通じて友情を育むことを前面に出して各事業を行い、素晴らしい友情を築くことができたと感じています。2025年度は大垣市青年のつどい協議会の会長を輩出する年でもあり、今年度築き上げた友情をより一層深いものにし、同志と共に大垣市、そして西美濃地域を盛り上げ、より良い地域となるよう活動や運動を展開していくことを願っています。

【新たな広域連携の模索】

今年度も「最重点ビジョン」にある「災害を見据えた広域連携に向けた取り組み」として、防災事業を実施しました。2022年より地域住民を巻き込み、防災に対する意識変革と知識の向上を目的に行ってきましたが、今年度はより多

くの地域住民、特に子供をターゲットにし、体験を通して楽しく学び、防災意識の向上に努めてまいりました。2024年1月1日に発生した能登半島地震で改めて日本全体の防災意識が高くなったこともあり、来場者は300名を越える結果となりました。その中で広域連携を目指す事業として、災害時における協力体制の協定書を締結している西美濃地域2市9町の行政、社会福祉協議会の方々にもご協力頂くと共に、警察署や消防組合など延べ9団体の方々にも事業の趣旨に賛同して頂き事業を実施することができたのは、今後の広域連携を模索する上で一つの方向性を創出できたと感じています。また、公益事業において、特に地域住民の皆様にどれだけ周知できるかが重要である中で、周知もさることながら普段から人が集まる場所で事業を実施できたことも、想定していた来場者を越えられた要因であり、今後の事業構築や地域との連携という点においても、新たな方向性を創出できたと感じています。

また、4月度例会で頂いた住民の皆様からの声を形にするべく行った11月度例会では、外国人就労者や外国人観光客が年々増加し、グローバル社会へと突入していく中で、次世代の子供たちに自身の文化の素晴らしさを学ぶと共に、異文化を受け入れ、共に認め合うことテーマに掲げ、小学生を対象に異文化交流事業を行いました。多くの課題が絡まりあって複雑化する中で、新たな視点で事業を実施することができたことは、大垣青年会議所にとって有益であり、自信に繋げていけると感じています。今後も、この経験を活かし「できる事業」を行うのではなく、懸命に考え、諦めない気持ちを持って新たな事業の構築に挑戦して欲しいと願っています。

【青年会議所のネットワークを最大限に活かす】

まず、2024年4月3日に発生しました台湾東部沖地震の災害義援金につきまして、多くの大垣JCシニアクラブ会員の皆様より心温まるご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。社團法人花蓮國際青年商會との姉妹締結55周年を迎えた今年度、地震の影響により台湾での式典への出席は叶いませんでした。しかしながら、日本での花蓮JCとの交流の機会とJCI世界会議桃園大会において、昨年に引き続き、花蓮JCとの交流を行うことができました。55年もの長きにわたり友情を育み、共に切磋琢磨できる同志との交流を通して、改めて歴史の重みを感じると共に、この友情を連綿と繋いでこられた先輩諸兄姉に改めて感謝する機会となりました。今後も、姉妹締結60周年に向けて交流を行うことで、国際交流を通じた友情を育むと共に、平和な世界の実現に寄与して欲しいと願います。

また、今年度は岐阜ブロック協議会会長を輩出し、岐阜ブロック協議会の主管を務めた1年でもありました。10名を超える出向者を輩出し、主管LOMとして大垣青年会議所の良さを存分に發揮することができたと感じています。また、岐阜ブロック協議会のさまざまな事業を通して、出向者のみならず全会員が成長の機会に触れ、学び多き1年であったと感じています。今後も、出向を通した成長の機会を会員一人ひとりが積極的に掴み、大垣青年会議所の発展に寄与して頂けることを願っています。

【未来を見据えた組織のあるべき姿】

年々、厳しさを増す組織運営において、取捨選択や変化なくして組織の成長はありません。今年度も円滑な組織運営を目指し、日々活動や運動を行ってまいりました。1年を通して感じたことは、新たな組織を創出するには、何よりその歴史をしっかりと学ばなければならないということでした。73年目の大垣青年会議所が存在できているのは、72年という輝かしい歴史があるからです。「今の時代に即す」という言葉を使って、大変なことや手間のかかることだ

けを変えるという考えは、組織を衰退させていると同じことではないでしょうか。大垣青年会議所が存在する限り、組織運営も必ず存在します。明るい豊かな社会の実現を目指す団体として、時代に合わせた組織運営を目指して、議論を重ね、理想の組織を目指して欲しいと願っています。

【おわりに】

「あなたは何のためにJCをしていますか。」

理事長所信の最初の1文として、このように書き出しました。1年を通して、その答えを見つけることができたでしょうか。地域のため、家族のため、自分自身のため。その答えを見つけられた会員もいれば、見つけられなかつた会員もいることだと思います。しかし、答えを見つけて欲しいために書いたのではありません。それを常に考えて行動して欲しいと思ったから書いたのです。

「何かのため」

これがあるのとないのでは、姿勢や行動、言動まで大きな差が出ます。そこに不撓不屈の精神が加わった時、人は想像を超える力を發揮できると私は信じています。そして、大垣青年会議所41名の会員にもその力が宿っていると信じています。自信に満ち溢れたJAYCEEとして、これからの大垣青年会議所を、そして西美濃地域を守り、次代へと繋いでいって下さい。

1年間、皆様と共に活動できたことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。